

1846年、ノルウェー西岸とアイスランドに挟まれた、北緯約62度の北大西洋上に位置するフェロー諸島で麻疹が流行した。聞き取りをした若いデンマークの医師の報告によれば、7万8千人ほどの住民のうち65歳以上の島民を除いて、ほぼ全て

山本 太郎氏

759

感染症と文明のあり方再考

の住民が麻疹に罹患したこと、65年間、島には麻疹の流行はなく、前の流行はちょうど65年前の1781年だったこと、どちらの流行も島に立ち寄った捕鯨船の船員が麻疹を島に持ち込んだ可能性が高いことが明らかになった。

この麻疹の流行は、感染症と人類史に対する示唆を私たちに与えてくれる。それは、数千人規模の人口集団の社会では麻疹やインフルエンザ

といった急性感染症の流行は維持できない、ということだ。後の研究によれば、そうした感染症の流行には数十万人規模の人口を有する社会の存在が必要になることもわかった。

そうした人口を私たちの社会が有するには、文明の勃興を待つ必要があった。それを演繹すれば、数百人の人口集団が木の実を拾い、貝を採っていた社会には、そうした感染症は存在しなかったということにもなる。否、たとえ持ち込まれたとしても麻疹やインフルエンザのウイルスはほぼすべての人に感染したあと、行き場を失い自然と消滅したであろう。それは、ウイルスが今回の新型コロナウイルス感染症の原因ウイルスであったとしても同様である。

こうした事実、感染症が流行する真の原因は、ウイルスではなく、私たちの「社会のあり方」にあるという単純だが重要な視点を私たちに教えてくれる。

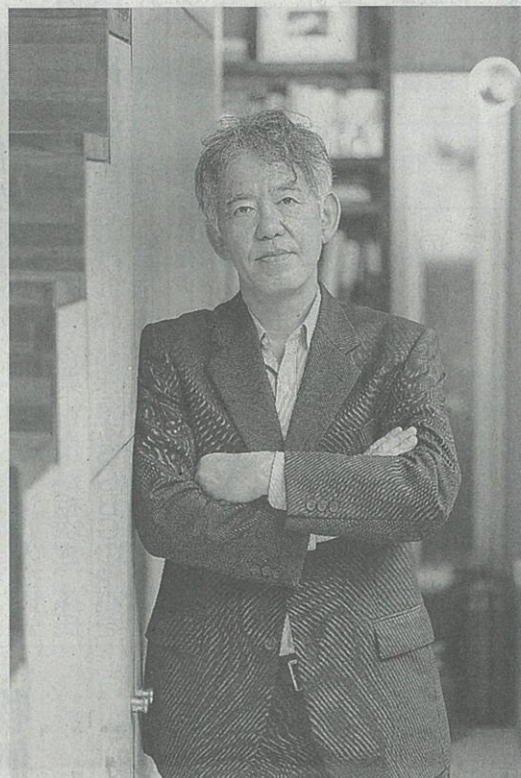
人類は、文明の勃興以降、その活動の範囲を広げてきた。現在の人口

は77億人を超えた。人間の活動や気候変動に起因する森林破壊は日々進行しており、世界の森林面積は年平均で1千万畝と推定されている。面積は東京都45個分に相当する。

人間の自然への無秩序な進出や森林の破壊は、野生動物の生息域の縮小とヒトとの接触を通して、本来野生動物のウイルスだったものをヒト社会へもたらす。そこに増加した人口、国境を超えたヒトとモノの移動を含むグローバル化がウイルス流行を支える。それが今回の新型コロナウイルス感染症出現の背景にある事実である。

地球温暖化を含む気候変動や環境への負荷は、もはや地球という惑星の限界を超えつつあるというのは専門家の共通認識である。この地球を豊かな生態系のまま次世代に引き継ぐためにも、私たちは今一度、自然の関係を一度考え直す必要がある。それは、このパンデミックのもう一つの教訓となる。

(長崎大熱帯医学研究所教授)



やまもと・たろう 1964年生まれ。国際保健学、熱帯感染症学。京都大、外務省国際協力局などを経て現職。アフリカなどで感染症対策に従事。著書に「感染症と文明」「疾病と人類」など。